2019年３月14日

Press Release

公益財団法人ＪＲ西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目４-24
TEL 06-6375-3202　FAX 06-6375-3229

公募助成の助成先が決定！贈呈式を開催！

ＪＲ西日本あんしん社会財団

2019年度公募助成（活動及び研究）助成先（活動団体・研究者）が決定しました 助成贈呈式を３月25日に開催します

～身近な「いのち」を支える取り組みを応援、西日本豪雨の被災地･被災者支援活動にも助成します～

○応募及び選考結果

ＪＲ西日本あんしん社会財団では、2019年度も「安全で安心できる社会」の実現に向け、心身のケア、防災、救急救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究を広く募集しました。さらに、今回は平成30年７月豪雨（西日本豪雨）に対する被災地・被災者支援活動を特別枠に加え募集しました。その結果、活動助成55件、活動助成（特別枠）28件、研究助成64件の計147件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、全件で58件、5,161万円の助成を行うことを決定しました。

	応募件数	助成決定		
		件　数	金　額	採択率
活動助成	５５件	２８件	１，７４０万円	５１％
活動助成（特別枠）注	２８件	１４件	９３４万円	５０％
研究助成	６４件	１６件	２，４８７万円	２５％
合　　計	１４７件	５８件	５，１６１万円	４０％

注「活動助成（特別枠）」とは、東日本大震災、平成26年広島市土砂災害及び平成30年７月豪雨（西日本豪雨）の被災地・被災者支援に関する活動に対する助成を指します。

※助成期間は、2019年４月１日から2020年３月31日までの１年間です。
※各助成先の助成対象テーマは、資料１をご参照ください。
※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、資料２をご参照ください。

○贈呈式について

2019年３月25日（月）15時より、ホテルグランヴィア大阪にて、助成先の皆様にお集まりいただき、「2019年度公募助成贈呈式」を執り行います。目録の贈呈、決意表明等を予定しています。

＜取材について＞

贈呈式の取材をご希望される場合は、３月18日（月）17時までにご連絡ください。

ＪＲ西日本あんしん社会財団事務局　TEL:06-6375-3202

2018年度公募助成贈呈式

「2019年度公募助成（活動及び研究）」助成先一覧

【資料1】

【活動助成】

（団体名50音順）

団体名	活動名称	主な活動内容
生きる力を育む研究会	コミュニティ生成型防災事業LODE(ロード)をより発展させた『障がい者を理解するためのチャート図』の普及活動	災害時に、障がい者や高齢者をはじめとした社会的弱者の命を守るために、地域住民等に向け障がい者等を適切に避難誘導するために開発したチャート図によるワークショップの実施と対応力の増進を図る。
揖西北まちづくり協議会	地域全体で取り組む防災活動（被災地での勉強会から講演イベント、防災ウォークまで）	高齢者世帯が増加する地域で、地域住民一人ひとりが災害に備える知識と力をつけることを目的に、防災学習会や被災地での学習会等を実施する。
特定非営利活動法人 インターナショクナル	国籍や年齢を問わずに非常時における自助・共助できる力の養成と実践をめざすワークショップ	多国籍の家族を対象に道具・食料が限られる状況をキャンプ用品を活用して体感するワークショップを実施し、言葉を超えた協力の実践や、緊急時・非常時の対応力を高め合う。
特定非営利活動法人 HCCグループ	防災フォーラムin大津「活断層地震　ラジオはあなたの命を守る」	地域コミュニティ放送の従事者、住民の防災意識の向上、及び地域の防災力を高めるための防災フォーラムの開催や災害時の社会的弱者である一人暮らしの高齢者へのラジオの配布・啓発を行う。
大阪IJ　いのちの授業	教職員や地域住民の救急医療・防災力向上を目的とするいのちのラリー と学びブース	教職員の救急・災害訓練の成果を検証し、PTA・地域住民が救急・災害訓練の必要性を認識し、地域の取組として講義や実地訓練等を行うとともに、チームで参加する救急・災害のシナリオによるラリーを実施する。
大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会	被災地でリハビリテーション支援活動を行うための人材育成と組織作り	災害時に被災地で円滑なリハビリテーション支援活動を行い、震災関連死や生活不活発病を予防することを目的に、研修会、大規模災害を想定した実働訓練による人材育成を行い、シンポジウム、学会発表を行う。
特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会	障がい者が行う心肺蘇生と応急手当の普及	障がいを持つ方がその障がいの種類や程度に応じて行える「心肺蘇生と応急手当」を確立し、指導法や教材を広く社会に提供するとともに講習会を通じて普及に努める。
関西福祉大学 市橋研究室ボランティア学習グループ	不登校の子ども等支援を要する子どもを対象とした地域防災ネットワー ク支援活動	不登校等の孤立した子どもたちが安心して集うことのできる居場所づくりの活動とともに、子どもを孤立から守るための学校における自殺予防等の教育プログラムを実施し、地域のネットワーク構築による地域防災力の向上を目指す。
特定非営利活動法人 きぼうの会	大規模災害等に対する支援活動講習	南海トラフ地震・大規模災害に備え、介護職員及び紀南の地域住民の救命知識向上を目的に、ドクター・看護師・救命士等専門的なインストラクターによる基礎から応用までの救命ガイドラインの講習を行う。
グリーフサポートラル大津	グリーフサポートによる地域コミュニティの活性化支援活動	グリーフを抱えている人が安心して分かち合える場を地域に提供し、孤立を防ぎ共に生きていくことのできる地域コミュニティづくりを目的に、グリーフサポートのための会や講座を開催する。
公益財団法人 公害地域再生センター	水害多発地域における子育て層による自律的な防災活動	子育て層を主な対象とした自律的な防災活動の実施を目的に、防災ネットワークづくりや、防災イベント、勉強会を実施するほか、SNSを活用した防災情報の発信を行う。
子どもサバイバルキャンプ実行委員会	かんまきサバイバルラボ	子どもたちに防災の基礎知識、防災訓練や救助法のほか、野営の炊き出し等の知識を教えるとともに、防災訓練や救動の担い手の育成を図るための、自助・共助の大切さを学ぶキャンプを開催する。
災害時要配慮者救援NPOレスキューアシスト	災害救援　レスキューアシスト	大阪北部地震、台風21号での被害に対するブルーシートによる屋根の養生作業の継続支援活動や業者、被災者へのブルーシート設置講習会を実施する。
さかい聴覚障害者防災ネットワーク	地域防災ネットワーク活動	聴覚障害者理解のための防災マニュアルの作成・配布及び聴覚障害者誘導システムの導入等を行うとともに、防災力・減災力を高めるための講演会、学習会、防災に関するバスツアー・防災ニュースの発行等を実施する。
特定非営利活動法人 Salut	くらしと災害フォーラム2019	災害とジェンダー問題、要配慮者支援と多様性配慮に対する理解の向上及び誰もが安心できる地域づくりの構築を目的に、くらしと災害フォーラムを開催し、フォーラムの講演録の小冊子化及び配布を行う。
次世代エネルギー研究所	ドローンを用いた地域防災訓練の検証	地域防災能力を高めるため、自治体等と連携し、ハザードマップ等に基づいたドローンの効果的な活用方法を調査研究しながら、広く地域住民を対象にドローンを使った避難訓練や緊急物資搬送の防災訓練を行う。
特定非営利活動法人 鍼灸地域支援ネット	災害時における鍼灸・マッサージ活動のための支援情報共有ツールの作製	鍼灸・マッサージチームが避難所等で行う支援活動の情報等を関係者に迅速で正確に提供するためのITによる連携システムと情報ツールの作成を行う。
特定非営利活動法人 震災から命を守る会	「命を守る読み聞かせ」授業	次世代を担う子どもたち自身が命を守り、生き抜いていくことができるように、児童養護施設の児童を対象とした読み聞かせイベントを実施する。
NPO法人 日本教育再興連盟	防災教育サロン	防災ゲームや読書会のほかイベント開催を通じ、防災教育実践コミュニティ形成とともに、京都市内の教育現場での防災教育の認知及びノウハウの浸透を目指す。
のまはら	市民災害支援隊スキルアップ事業	発災時、迅速に救助等の対応ができる人材の獲得と支援時に必要な物資を確保できるネットワークづくり、並びに即戦力となる人材の育成と救助物資・資材・備品の確保、構築を行う。
一般社団法人 ハーグ	Huuugなりきりステージ3匹のこぶた～防災教育～	幼児期の子どもにも理解が出来る全員参加型の防災ミュージカル（Huuugなりきりステージ）を 各園で実施し、未来を担う子どもたちの防災への関心を高め、防災力の向上を図る。
はすの会	家族や愛する人を失った方々を支える。グリーフケア提供者を養成する。	大切な人を亡くした方を対象とした勉強会や茶話会の開催、医療職や看護学生などグリーフケア提供者のための研修会を実施する。
B－NET@SAIDAIJI	一次救命処置たし算プロジェクト	無料講習の実施と各種イベントへ参加し、胸骨圧迫を数値化できる訓練器の活用による質の高い胸骨圧迫のスキルをはじめ、一次救命処置の方法を多くの人に提供し、救命率の向上を図る。
ビリーブメントケアチーム 「ビリーブ」	ビリーブメントケアチーム「ビリーブ」	子どもを亡くした家族、特にケアが必要な急性期の遺族に対して、訪問活動やカフェ形式のわかちあいの場の開催により、心の支えとなる支援を行う。
フレンズかわにし実行委員会	JR福知山線列車事故　被災者支援募金イベント　フレンズかわにし　2019	事故の風化を防ぎ、安全を訴え続けるために、講演や音楽演奏を中心としたイベントや救急手当講習会などを行うとともに、事故被害者支援のための募金を呼びかける。
ポコズママの会 関西	流産・死産経験者で作るポコズママの会	流産・死産を経験されたご家族のサポートや流産・死産についての正しい知識を啓蒙するため、悲嘆の様子に応じたお話会や講師を招いたセミナーを開催する。
特定非営利活動法人 ママふぁん関西	ほくせつ親子防災部	災害から子どもの命を守る事が出来る親を増やし、北摂全域で日頃から防災について協働出来る風土をつくることを目的に、防災講座の実施や防災ノート（冊子）の改訂・増刷を行う。
和歌山県情報化推進協議会	臨時災害放送局開設訓練を通じた災害時の地域情報共有基盤の形成	災害発生時に臨時災害放送局を開設し、地域内の災害情報共有基盤を作ることを目指し、開設訓練を通じて、技術的な対応力のみならず、地域からの情報を収集・整理し伝達するための仕組みを構築する。
活動助成小計　28件		

「2019年度公募助成（活動及び研究）」助成先一覧

【活動助成（特別枠）】　　（団体名50音順）

団体名	活動名称	主な活動内容
笑顔つながるささやまステイ実行委員会	笑顔つながるささやまステイ	福島県の被災地で暮らしている子どもたちと保護者を篠山に招く4泊5日のステイを実施、終了後に報告会や福島の現状を学ぶ勉強会を開催し、地域防災力の向上にもつなげる。
特定非営利活動法人 エンディングノート普及協会 ※	プロボノを活用した被災地の生活再建支援の実践とこれからの災害に備えた活動の仕組みを構築する活動	災害時に介護や医療従事者等が自らの専門知識や技能を生かすことのできる支援活動の仕組みを構築し、災害時の高齢者への配慮についての勉強会と交流会、定期的な被災地の訪問と生活再建支援を行う。
大阪大学災害ボランティアサークルすずらん	被災地での地域活性化ツアーおよび民泊の実施	高台移転を余儀なくされた岩手県の被災地のコミュニティ形成支援と物販会や民泊体験等の事業を通じた復興支援を行うとともに、関西での東日本大震災の風化防止を図る。
NPO法人 語り部おもちゃ箱音楽隊	東北被災地及び西日本豪雨被災地ふれあい語り部コンサート	東日本と阪神・淡路、二つの大震災を経験した団体代表らによる語り部コンサートを東北や広島などで開催し、双方の被災地の状況を伝えるほか、身近な防災知識の紹介なども行う。
京都技術士会理科支援チーム	東日本大震災復興支援こども理科実験教室２０１９	被災した東北の復興に係わる人材や日本を担う優れた理系人材を育成するため、被災地で「東日本大震災復興支援こども理科実験教室2019」を開催する。
災害で生活が変わった子供を支援する会 ※	子どもたち集まれ！！豪雨に負けない心を育てる！	西日本豪雨による被災地域の子供の心を支援し、災害に負けない絆を作るとともに、イベントを通して住民の結束力を集め、町を作る心を育てることを目的に、工作、読み聞かせ、運動を取り入れたイベントを開催する。
NARA Will 奈良県立医科大学 学生災害ボランティアグループ	医療系学生による福島県内での学生災害ボランティア復興支援活動	被災地の医療現場を中心とした現状を認識し、今後の被災地における支援活動に繋げることを目的に、学生災害ボランティア復興支援活動を行うとともに、終了後に追悼講演会を開催し、情報共有を図る。
虹色の音	いのちの大切さ	平成26年広島市土砂災害で大切な人を亡くされた遺族や被災者に、体験談と音楽療法を用いて、生きることの大切さを伝え、前向きな気持ちになってもらう。
被災支援ボランティア団体 「おたがいさまプロジェクト」	倉敷市真備町の緊急救援活動及び、避難所・仮設への慰問ボランティアツアー	西日本豪雨で被災した地域の支援のほか、ボランティア活動の意義や、被災地の現状・防災知識を広く知ってもらうことも目的に、同地域への緊急救援活動及び避難所・仮設の慰問ボランティア活動を行う。
ひだまり応援団 ※	西日本豪雨災害応援プロジェクト	被災した子どもたち、それに関わる大人への心と身体の支援等を目的に、子どもたちが笑顔になるようなコンサートのほか、季節ごとのイベントや、現状報告会を開催する。
びわこ☆1・2・3キャンプ実行委員会	びわこ☆1・2・3キャンプ in 2019夏	安心して自然と触れ合うことが難しい福島県の子どもたちを対象に、滋賀県高島市で琵琶湖での遊泳をはじめとした自然体験中心の施設滞在型の長期保養キャンプを行う。
三原アレルギーの会ひだまり ※	大規模災害に備えアレルギー患者の共助の仕組みをつくる活動	アレルギー患者及び関係団体の共助の仕組みを作り、支え合う輪を広げ次なる大規模災害への備えを目的に、平成30年7月豪雨災害アレルギー患者の取り組み記録作成、防災イベント・防災訓練を実施する。
三原vivaプロジェクト実行委員会 ※	遊viva事業	西日本豪雨の被災地域において、遊びを通じた子どもの健全育成をすすめるとともに、子どもの心のケアを地域で支え合う場づくりを目的に、地域福祉の推進、災害に強い地域作りを担う人材育成をを行う。
若者活動サポートセンターあおぞら ※	支えあい助けあう心を紡ぐ場づくり活動	広島地区における平成26年・平成30年の災害で傷ついた被災者・避難者の心に寄り添い、助け合い、次の災害に備えることを目的に、お茶会サロン活動、近助で支え合う方法について語り合う研修会を開催する。
活動助成（特別枠）小計　14件	※印は2府4県以外に拠点がある団体	

「2019年度公募助成（活動及び研究）」助成先一覧

【研究助成】　　（研究者名50音順）

研究者名	研究名称	主な研究内容
龍谷大学　政策学部　講師　石原凌河	歴史災害を題材とした逆ベクトル型防災教育プログラムの開発と多面的効果の検証	歴史災害を題材とした防災教育教材とそれを用いた学習プログラムを開発・実践し、多面的な効果等を検証し、逆ベクトル型防災教育プログラムの有用性を研究する。
近畿大学　准教授　石渡俊二	災害時に医薬品を有効活用するための「医薬品保有情報共有システム」に対して「指揮担当者モード」および「教育研修用教材」を開発する研究	災害時に被災地内の医薬品を有効活用するため、その使用状況を把握するシステムを開発するとともに、災害支援隊、行政・医療機関職員及び薬学部学生への研修用教材を作成する。
兵庫教育大学　准教授　伊藤大輔	外傷後成長の2つの側面に着眼した新たな被災心理支援プログラムの開発　―ポジティブ心理学的アプローチは被災者支援に有用か？―	被災等心的外傷後の成長の適応的側面と不適応的側面という2つの側面を促進・阻害する心理学的要因を明らかにし、その結果に基づいた被災心理ケアプログラムを開発・実施、考察する。
兵庫県立大学　地域ケア開発研究所 教授　梅田麻希	大都市圏における訪日外国人の災害時ヘルス関連ニーズ：インクルーシブな保健医療の実現に向けた看護ケアの検討	大都市圏で災害が発生した際の、訪日外国人にとってのヘルス関連ニーズを明らかにし、効果的な医療支援等の方策や訪日外国人支援に必要とされる看護職の役割や能力を検討する。
同志社大学　グローバル地域文化学部 准教授　王柳蘭	外国人をめぐるリスクとセーフティネット構築に関する学際的研究―防災学と地域研究を繋ぐ	在日外国人や災害脆弱者を対象に、日常のセーフティネットと非日常の自助・共助・公助について人類学（地域研究）と防災学による研究を行った上で、ワークショップを通じた顔の見える関係づくりを行う。
大阪市立大学大学院 工学研究科都市系専攻　教授　嘉名光市	歩行者アクティビティへの分析に基づく災害弱者の避難に寄与する歩きやすい市街地整備手法に関する研究	都市空間の災害を想定した実測・観察調査を実施し、そこで得た災害弱者の避難行動を把握する画像を抽出し、災害弱者の避難に寄与する歩きやすい都市整備の効果を研究する。
佛教大学　福祉教育開発センター 専任講師　後藤至功	災害時における福祉施設・事業者等のBCP・DCP策定に関する研究事業	社会福祉施設・事業所等における発災時からの避難生活期の緊急対応・対策を可視化・構造化・理論化し、日常と連動した災害時のケアシステムの検討を行う。
大阪医科大学附属病院　医療技能シミュレーション室　副室長　駒澤伸泰	多職種連携を重視した網羅的災害訓練プログラムの開発	医療職間、病院間をはじめとする災害時の円滑な多職種連携に向け、連携教育の課題抽出と連携に重点を置く網羅的災害訓練法の確立、さらには人工環境システムへの応用を研究する。
関西学院大学　教授　坂口幸弘	死別の悲しみとともにより良く生きるための知恵　―パターン・ランゲージの手法による体系的記述―	当事者遺族や支援者の体験知を集約し、「死別の悲しみとともにより良く生きるための知恵」を体系的に言語化し、カード化することによる、遺族会や支援者研修の場での臨床的有効性について研究する。
大阪市立大学　生活科学部 特別研究員　志垣智子	高齢者賃貸住宅における地震災害後の高齢者QOL劣化状況把握と低減に資する救急情報共有活動プラン策定への研究	大阪北部地震後の賃貸住宅入居高齢者のQOL劣化状況と緊急時の救急カプセルの効用を検証し、救急情報共有活動プラン策定を目指すとともに、地域包括ケアシステムの共助のあり方を検証する。
和歌山大学　教育学部　准教授　高橋多美子	熊本地震から展望する幼児期における地震防災教育	熊本・和歌山県の幼稚園・保育所等における地震防災教育の実状調査等を行い、幼児期における望ましい地震防災教育や園整備を提示すると共に、保育実践を行い、教育効果を研究する。
和歌山大学　システム工学部 准教授　塚田晃司	列車を情報発信拠点とする鉄道津波避難支援システムの検討	津波時に避難場所まで適切な避難誘導ができるよう、緊急停車した列車を情報発信拠点とした津波避難支援システムの機能の検討、及び津波避難訓練の場を利用しシステムの実証評価を行う。
兵庫教育大学　准教授　當山清実	小中学校の通学路における学校安全に関する考察―気象災害を対象として―	気象災害に対する生徒等の通学時の安全を確保するため、各学校の臨時休業の調査・研究等を通じ、現実に即した各校の臨時休業基準の基準の在り方を提案する。
公益社団法人NEXT VISION 常務理事　仲泊聡	視覚障がい者の転落事故低減を目的とした電子式歩行補助具の空間認識技術の研究開発	視覚障がい者の駅ホームからの転落事故低減を目的に、駅ホームの危険な状況を伝達する電子式歩行補助具（計測部）の開発・評価、及び既開発の情報伝達部との総合性能評価を行う。
四條畷学園大学 リハビリテーション学部 作業療法学専攻　教授　野口裕美	被災地支援としての動物介在療法とロボットセラピーにおける被災者の心ケアの可能性につて　～継続的な支援の効果～	東日本大震災及び西日本豪雨被災者の不安やストレスの軽減のため、動物やロボット介在療法を実施し、介入効果を2手法間、災害間で比較することにより、効果的な介入方を研究する。
滋賀医科大学　社会医学講座　法医学部門 教授　一杉正仁	外因死者遺族への精神的健康増進に向けた効果的対応法の確立	事故・自殺等外因死された方の遺族のケアを行うため、心のケア相談窓口利用遺族の情報収集、剖検された遺族への聞き取りと精神・心理状態の調査を実施し、効果的ケア法を確立する。
研究助成小計　16件		
＜総合計＞　58件		

【資料２】

「2019 年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人ＪＲ西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会　委員長　白取　健治

「2019 年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

１．応募状況

「2019 年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケアに関する活動や研究」として募集いたしました。

「活動助成（特別枠）」においては、「平成 30 年７月豪雨（西日本豪雨）」（以下、( ) 内略)による甚大な被害の発生を踏まえ、同災害に対する被災地・被災者支援活動を特別枠とし、広島県及び岡山県に活動拠点を置く団体も対象に加えることといたしました。また、引き続き長期的な支援が必要とされる東日本大震災や平成 26 年広島市土砂災害に対する支援についても前年同様『地域との連携やつながり』を重視する活動を重点テーマに募集いたしました。

募集開始前より、近畿２府４県、広島県及び岡山県内の社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、ＮＰＯ支援機関等への訪問やチラシ郵送による広報活動を行い、募集期間中には、駅等でのポスター掲示を行ったほか、助成に関する個別相談会を大阪及び広島に加え、初めて岡山地区でも開催するなど、公募助成の内容をより多くの方々に知っていただけるよう積極的な広報活動を展開しました。平成 30 年７月豪雨の被災地・被災者支援活動に対する助成支援についても、広島地区で一部マスコミに取り上げていただいたこともあり、一定の認知を得ることが出来たと感じております。

平成 30 年７月豪雨のほか、昨年夏以降の自然災害の激甚化や多発化等を反映し、災害関連の応募が増えたこともあり、前年より活動助成は５件増加し 55 件、活動助成（特別枠）は 10 件増加し 28 件、研究助成は５件増加し 64 件となりました。合計では 20 件多い 147 件（前年 127 件）の応募をいただきました。

２．審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

７名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、１次審査と２次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が２次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載がある当財団による本助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準とし、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等も十分踏まえつつ、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域における連携やつながり」の視点で厳正な審査を行い、採択案を決定しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力を十分に吟味したうえで、採択案を決定しました。

３．審査結果

今回の募集でも、質の高い応募が多数寄せられました。これは、本公募助成が回を重ねながら、地域の関係機関や大学等研究機関への訪問広報活動をはじめ、個別の相談会の開催などの広報活動が実を結んだほか、既助成団体の紹介等、本助成が地域社会に浸透してきたことの表れだと考えています。

最終的には、当初予定していた助成総額5,000万円を上回る、活動助成28件、1,740万円（前年27件、1,661万円）、活動助成（特別枠）14件、934万円（前年９件、629万円）、研究助成16件、2,487万円（前年19件、3,003万円）、合計58件、5,161万円（前年55件、5,293万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。採択率は、活動助成が51％（前年54％）、活動助成（特別枠）が50％（前年50％）、研究助成が25％（前年32％）となり、全体では40％（前年43％）となりました。

(1) 活動助成

昨今の災害報道や異常気象等による防災・減災意識の高まりを受け、防災・減災に関する応募が多く、次いで、心のケア、救命に関する取り組みの応募がありました。 採択件数においても、その順序を反映する結果となりました。

(2) 活動助成（特別枠）

平成30年７月豪雨の被災地・被災者支援活動に多くの応募があり、東日本大震災等の被災地・被災者支援に関する活動については、発災からの時間経過もあり、昨年に引き続き前年を下回る応募となりました。活動内容としては、ともに被災者の心のケアに関する応募が多く、それらを中心に採択いたしました。

なお、２府４県以外に拠点がある団体として広島県から６団体採択しました。岡山県の団体からは応募がありませんでした。

(3) 研究助成

活動助成と同様に、防災・減災に関する応募が多数寄せられ、当該分野の採択数が多くなりました。また、心身のケア等に関する研究も防災に次いで採択いたしました。その他、限られた助成金の中で研究分野のバランス等も重視した結果、交通、救命など幅広い分野から、本公募助成の趣旨に合致し、社会的必要性が高く、独創的、先駆的な案件を採択いたしました。

４．総評

今回も質の高い、熱意あふれる多くの応募をいただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

昨年と比較すれば、平成30年７月豪雨による被災地・被災者支援活動の特別枠への追加等の要因もありますが、活動助成や活動助成（特別枠）、研究助成の全分野で前年を上回ることとなりました。これは、これまでの広報活動に加え、本公募助成の認知度がより高まった結果だと思います。

質の高い応募がある一方で、採択となった案件についても、内容計画等もう少し詳しく、具体的に書いていただきたいと感じるものもありました。また、「必要事項の記載漏れ」「収支の内訳や算出根拠が不明確」などといった申請上の記載不備、書類不備があるために、内容自体はよくても、不採択とせざるを得ないケースもありました。さらに質の高い応募を多数いただけるよう、適宜申請様式の改善や書類不備等を未然に防ぐためのチェックリストの見直しを実施していく必要もあると考えています。

2019年も３地区で個別相談会の開催を予定しておりますので、申請の悩みなど是非相談していただければと思います。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。「安全で安心できる社会」の実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、そして新しく取り組みを開始される皆様のご活躍を心よりお祈りしております。